

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4078000082
法人名	有限会社まんてん
事業所名	有限会社まんてん
所在地	福岡県久留米市三潴町草場33番地の1 (電話) 0942-64-5401

評価機関名	福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成19年9月27日	評価確定日	平成19年11月20日

【情報提供票より】 (平成19年9月8日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15年 6月 1日						
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人				
職員数	7 人	常勤	6人,	非常勤	1人,	常勤換算	3人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	1階建ての	～ 1日 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	0 円	
敷金	(有) (120,000 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 () 円	有りの場合 償却の有無	有 / (無)	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり	1,000 円		

(4) 利用者の概要 (平成19年9月8日現在)

利用者人数	8 名	男性	3 名	女性	5 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名		
要介護3	1 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 80 歳	最低	54 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	藤吉内科医院 毛利歯科
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は、大きな川沿いから少し入った昔ながらの住宅街にあり、家庭的な造りで違和感なく周囲に溶け込んでいる。玄関を入ると、シルクフラワーや観葉植物があちこちに置かれ、心と落ち着いた空間が広がっており、南側にあるリビングは、採光がよく、利用者にとって居心地の良い場となっている。管理者をはじめ全職員は、明るい雰囲気、利用者に対する心の通った支援が見受けられた。地域との交流にも取り組み、記録などの整備も含め、今後に期待したい。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題については、全職員で改善計画を話し合い、事業所便りの発行、家族会の設置、鍵をかけないケアの実践等、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者と計画作成担当者が、全職員の意見を集約して取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	利用者やサービスの実際等を報告し、委員から意見や要望、質問等をもらい、地域住民の事業所への理解を深めるために近隣住宅へ事業所便りを配布したり、老人会のボランティアを受入れる等、そこでの意見をサービス向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	家族会があり、定期的に意見交換を行っている。来訪時など意見が出やすいように声かけに努め、意見箱を玄関に設置している。月1回、担当職員が利用者の状況等について手紙を書き、意見や要望等を引き出すよう努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の隣組に加入し、清掃活動に参加している。老人会のボランティアや介護福祉士の実習を受入れ、近隣住宅へ事業所便りを配布する等、地域との交流に努めている。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「一人一人を大切に」「優しい笑顔、温かい心で」「人に優しく自分に厳しく」という事業所独自の理念をつくりあげているが、地域密着型の視点が加わっていない。	○	全職員で協議等を行い、これまでの理念に加えて、地域密着型サービスの視点を加えた理念をつくりあげてほしい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の朝礼や月1回の会議を通じて理念を共有している。日々の業務において不適切なことがあった場合は、その都度、職員間や管理者と話し合い、理念の実践に向けて取り組んでいる。	○	地域密着型サービスの視点を加えた理念をつくりあげて、それを全職員で共有し、理念の実践に向けて、日々取り組んでほしい。
2. 地域との支え合い					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の隣組に加入し、清掃活動に参加している。老人会のボランティアや介護福祉士の実習を受入れ、近隣住宅へ事業所便りを配布する等、地域との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、管理者と計画作成担当者が全職員の意見を集約して、取り組んでいる。また、前回評価での改善課題については、全職員で改善計画を話し合い、事業所便りの発行、家族会の設置、鍵をかけないケアの実践等、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいるが、改善方法や経緯の記録が確認できなかった。	○	外部評価の改善課題を書面化して、全職員で一つひとつの改善方法や経緯について具体的に意見交換し、協働しながら改善して、改善シートとして保存してほしい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者やサービスの実際等を報告し、委員から意見や要望、質問等をもらい、地域住民の事業所への理解を深めるために近隣住宅へ事業所便りを配布したり、老人会のボランティアを受入れる等、そこでの意見をサービス向上に活かしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	パンフレットを持参して行政や地域包括支援センターへ出向き、利用者の状態についての相談や質問等を行い、行政とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者と一部職員は外部研修に参加し、研修を受けた職員は他の全職員へ伝達研修を行い、周知を図っている。テキスト等も確認できた。	○	制度について家族等へ説明する機会を設けてほしい。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	事業所便りを季刊発行している。月1回、担当職員が利用者の暮らしぶり等について手紙を書き、また家族の来訪時にも報告している。金銭管理については、立替金制度を行っており、領収書を提示し、利用者一人ひとりにあわせた報告をしている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会があり、定期的に意見交換を行っている。来訪時など意見が出やすいように声かけに努め、玄関に意見箱を設置している。月1回、担当職員が利用者の状況等について手紙を書き、意見や要望等を引き出すよう努めている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は、職員の異動や離職について、できるだけ抑える努力をしている。やむをえない場合は、1ヶ月の引継ぎ期間を設け、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。また、利用者一人に対して、担当職員を数名配置し、馴染みの職員が継続的に支援する体制を構築している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
5. 人材の育成と支援					
11	19	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>採用にあたっては、性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにし、「和」や「輪」を大切に人を重点においている。職員旅行等を実施して、ストレスマネジメントを行っている。</p>		
12	20	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>一部職員が外部研修を受講し、ミーティング時に口頭で伝達を行い、周知を図っている。研修資料をいつでも閲覧できるようにしている。また、管理者は、問題があった場合は、その都度職員に注意を促し、人権尊重の大切さを指導をしている。</p>	○	<p>全職員に対して、人権に関する研修会等への参加の機会を積極的に作り、その記録を残してほしい。</p>
13	21	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修について、管理者は職員に周知を図っているが、職員の能力や段階に応じた研修計画を立てるまでに至っていない。</p>	○	<p>年間研修計画を立てて外部研修へ参加する機会を確保し、全職員に対する内外研修に取り組み、その記録を残してほしい。</p>
14	22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>福岡県認知症高齢者グループホーム協議会へ加入している。同業者と定期的に交流会を持ち、見学や電話で情報交換も行っている。</p>		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用開始前に自宅を訪問して説明し、その後見学や体験サービス等を通じて、安心感をもって利用出来るように支援している。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	掃除等を共に行い、職員が植木の剪定、着物の着付等を教えてもらう場面がある。また庭掃除や洗濯物をたたむ等、職員と利用者が共に過ごし、学び、支えあう関係を築いている。		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者へ声をかけ、言葉や表情、行動等から思いや意向の把握に努めている。また、意向の把握が困難な利用者については、本人の表情や行動から把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者及び家族の希望や職員の気づき、意見等を反映した、一人ひとり具体的な介護計画を作成している。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回、また利用者の状態の変化や状況に応じて随時介護計画を見直し、現状に即した新たな計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の入院の際には、家族や医療機関等と連携を図り、早期退院に向けた支援を行っている。病院の通院や送迎等は、家族と相談して個別に支援している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望するかかりつけ医を把握しているが、事業所の協力医療機関でも受診できるように支援している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた方針がある。	○	重度化や終末期の方針について、できるだけ早い段階から、事業所・家族・本人・医療関係者・全職員で話し合い、家族等の納得の上で方針を全員で共有してほしい。
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者一人ひとりのプライバシーを尊重し、態度や声かけに注意し、さりげない介護を心がけている。日々の引継ぎやミーティング時に、利用者の誇りやプライバシーを損なわないケアについて意識向上を図っている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな1日の流れの中で、一人ひとりのペースを大切に、植木の剪定や庭掃除等、利用者の気持ちや体調に配慮して支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に準備や片付けをし、また、さりげなく介助を行いながら、同じテーブルで同じ内容の食事を、和やかに食べている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の状態等により、職員の勤務体制にあわせて決まった時間に入浴しており、利用者の希望やタイミングに合わせての支援が十分とは言えない。	○	業務内容の見直しや検討を行いながら、一人ひとりの希望する入浴を行うようにしてほしい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は利用者の得意分野を把握している。植木の剪定、畑仕事、漬物作り、洗濯物たたみ等、日々の暮らしの中で、楽しみごとも含めた気晴らしの支援がある。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や利用者の体調や希望に応じて、散歩や花見、外食等、戸外に出かけられるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、居室や玄関を施錠していない。全職員は鍵をかけることの弊害を理解しており、外出傾向のある利用者については、玄関に設置したセンサーや職員の見守りで対応している。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策のマニュアルがある。避難訓練は、事業所独自で行っている。	○	今後はいざという時のために事業所だけの訓練ではなく、最低年2回、消防署の協力及び地域住民の参加や協力を得ながら、避難訓練等を実施してほしい。また、非常食や備品の準備などは、事業所独自で準備してほしい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>一人ひとりの栄養摂取量を把握し、水分摂取をこまめに行い、一日を通じて水分量を確保するよう努めている。</p>	○	<p>最低年1回は、栄養士等による専門的アドバイスやチェックを受けてほしい。また、栄養摂取量及び水分摂取量を記録し、利用者の健康管理に努めてほしい。</p>
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>不快と感じる音や光はなく、家庭的雰囲気に配慮して、観葉植物や植木鉢、ドライフラワー等を置き、壁には和風の飾り物を掛けている。</p>		
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者の使い慣れた筆筒、テレビ、人形、家族写真等を持ち込み、各居室は個性的で、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>		

※ は、重点項目。